三重大学教育学部附属教育実践総合センター紀要　2011,　第 31 号，75 － 80 頁

高等学校家庭科における「ありがとうカード」を用いた意見交流学習の実践と効果

赤塚　美鈴[1)]・下村　　勉[2)]

教師の一方向的な授業の改善に向けて「学習者参加型授業」は有効な手段の一つである。本稿では「学習者参加型授業」をさらに推し進めるために生徒の意見を学習に役立てる「意見交流学習」を考案し、その実践と効果について論じる。具体的には「ありがとうカード」「アドバイスカード」と称する 2 種類のカードを用いて、生徒の学習成果物に対する感想（良かった点、改善点）を交流し、そのカードの記述内容やアンケートから両者のカードの有用性を比較、分析した。その結果、「ありがとうカード」は学習初期での活用が仲間意識を向上させ有効であった。一方、学習後期では「アドバイスカード」の内容に期待が膨らみ、両方のカードを使用することで「アドバイスカード」への記入が容易となった。これらカード活用は、「意見交流学習」を促進し、達成感や学習意欲を喚起させることができた。

キーワード：学習者参加型授業、意見交流学習、ありがとうカード、アドバイスカード、言語活動の充実

1．はじめに

高等学校家庭科の授業は、進学校の生徒の場合、受験科目を意識するあまり、軽視する傾向がみられる。実習については強く興味を示す反面、他の分野の学習においては消極的でその差は大きい。そのため教師も一方向的に授業を展開しがちであり生徒の興味関心を引き出せずに終わることが多々ある。筆者はその点を問題点として捉え、これまで学習にプレゼンテーションや生徒の意見を学習に採り入れた「学習者参加型授業」を推進してきた。具体的には、生徒の学習成果を「ありがとうカード」と称するカードで意見（良かった点）を交流させ、振り返りと学習意欲の向上を図る。さらに「ありがとうカード」に加えてアイデアの共有や改善点、励ましの言葉を「アドバイスカード」で交流する。この学習方法を「意見交流学習」と名付け、これまで研究・実践を継続してきた[1)~4)]。本稿は、2 種類のカードを用いた実践から、カードの有効性を明らかにし、さらに「言語活動の充実」[5)] に焦点を当て「意見交流学習」のあり方を考察する。

2．目　的

(1)「学習者参加型授業」を進めるために、年間指導計画に「意見交流学習」を採り入れた学習方法と題材を設定し、実践をとおして生徒の学習意欲や達成感についての効果を検証する。

(2)「意見交流学習」に「ありがとうカード」と「アドバイスカード」を用い、それぞれのカードの特徴と有効性を検証する。

(3) 言語活動の視点から「意見交流学習」の留意点を考察する。

3．研究の方法

(1)「意見交流学習」を重視した授業の設計

「学習者参加型授業」として授業内容に「新聞を使用したプレゼンテーション」と「リフォームによるかばんの製作」の 2 つを設定し、「意見交流学習」の段階的な学習内容により生徒の興味関心を高める。

(2) カードを用いた「意見交流学習」の実践と有効性の検証

「意見交流学習」に「ありがとうカード」と「アドバイスカード」の 2 種類を活用する場面を設定し、クラスごとに使用するカードを替えて交流する。記入後のカード内容、アンケート調査から結果を比較分析し、カードの特徴とその有効性を検証する。

(3)「意見交流学習」を言語活動の視点で捉えた留意点の考察

2 種類のカードによる交流を言語活動の視点から捉え、作品製作やプレゼンテーションへの取り組みを円滑にするための活用方法と指導のあり方を考察する。

4．　意見交流学習を軸にした授業実践

カードは図 1 の計画表に従い、クラスごとに使用するカードを替えて実践した。カードへの記入内容は、「ありがとうカード」には相手の良かった点、「アドバイス

1）三重県立津高等学校
2）三重大学教育学部附属教育実践総合センター

カード」には相手の改善点を記入するものとし、ともに記名式とした。

4. 1. 実践１「新聞を使用したプレゼンテーション」

（図２は授業の流れで数字は順序を示す）

授業の展開は次の（1）から（6）の順序で実践する。「意見交流学習」は図２の５のグループによるプレゼンテーションで実施する。

（1）課題の提示

新聞を読み、家族・家庭に関する記事に着目しながら興味のある記事を切り抜き、その内容から感想や考えたことを提出用のプリントにまとめる。課題への取り組み期間は、約 10 日間とし、提出内容が授業内容に合致するように注意する。

（2）課題提出～班編制

生徒の提出物を系統別に分け、班を編成する。具体的な人数構成は、１班４名とし、１クラス 40 名で 10 班の構成となる。

（3）テーマの決定から考察までのまとめ

生徒は班単位で、それぞれのテーマや内容を確認し合い、班で取り組むテーマと内容を決定する。さらに、調べ学習により一つの記事から内容を深め、考察する。

（4）スライド原稿作成（ここではスクリーンに投影させる際に用いる用紙を総称して「スライド原稿」と呼ぶことにする）

班の内容を他の班へと発信させるために、プレゼンテーション用のスライド原稿を作成する。４人一組で内容を「起承転結」にまとめ、１人一枚でＡ４版用紙に手書きで仕上げる。スライドは、手書きで仕上げ、それを書画カメラを通してスクリーンに投影する。作成時点で投影の状態をチェックする。

（5）グループによるプレゼンテーション【意見交流学習】

発表時間は一班あたり５分とする。１時限（65 分）で全てのプレゼンテーションを実施する。図１の計画に基づいたカードを配付し、生徒は他の班の発表についてカードに記入する。授業の最後にカードを回収し、班ごとに綴じる。図３は使用するカードである。

（6）学習の振り返り

班単位に着席し、班ごとに綴じられたカードを読み、取り組んできた内容や発表方法等について振り返る。

4. 2. 実践２「リフォームによるかばんの製作」

（図４は授業の流れで数字は順序を示す）

授業の展開は次の（1）から（6）の順序で実践する。「意見交流学習」は図４の１のかばん製作の企画、３のミニ鑑賞会、５の個人によるプレゼンテーションで実施するものとし、それぞれ「意見交流学習 1、2、3」とした。本授業は、環境問題と衣生活に着目した内容であり、

クラス		新聞成果発表会	被服実習		
			作品製作前企画	完成後4人による鑑賞 ミニ鑑賞会	完成作品「かばん」 プレゼンテーション
A	1組	ありがとうカード	アドバイスカード	ありがとうカード	ありがとうカード
B	2組	アドバイスカード	アドバイスカード	アドバイスカード	アドバイスカード
C	3組	アドバイスカード ありがとうカード	アドバイスカード ありがとうカード	アドバイスカード ありがとうカード	アドバイスカード ありがとうカード

図１　クラス別カード活用計画表

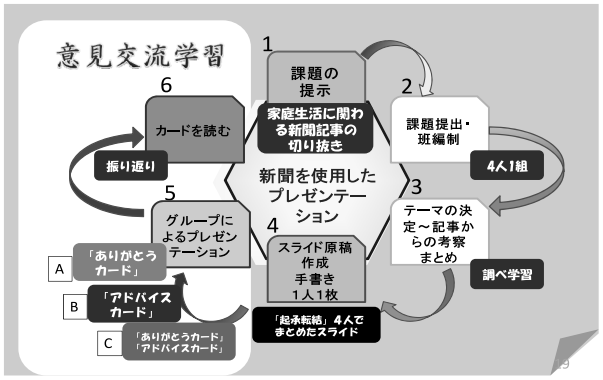


図２　実践１「新聞」の流れ図

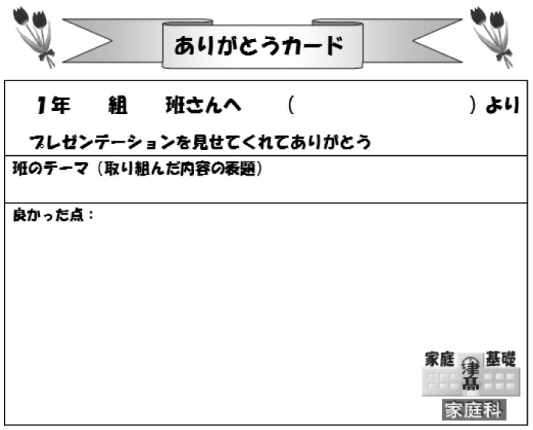


図３　ありがとうカード

生徒は個々に、各家庭で不必要となった衣服を持参し、その衣服を材料にして「かばん」を製作する。

（1）「かばん」製作の企画【意見交流学習 1】

各自で持参した衣服から「かばん」のデザインを具体化させ、イメージを持たせる。４名のグループ（実践１で取り組んだメンバー）で自分の考えていることを簡単にプレゼンテーションした後「どういうかばんに作り上げるか」を課題として交流する。カードにはひらめいたアイデアを具体的な言葉でわかりやすく記入し、交換する。

（2）製作実習

製作企画で得たアイデアを元に型紙作成から裁断、縫

製へと工程を進め、「かばん」を完成させる。

(3) ミニ鑑賞会【意見交流学習 2】

各自が完成した「かばん」について完成度を確認するために、4 名のグループ内でミニ鑑賞会を行いカードにコメントを記入する。得られたコメントは、個々に取り組む「完成作品のプレゼンテーション」で「かばん」を紹介するための話す内容へと役立てる。

(4) スライド原稿の作成

作品についてのプレゼンテーションを容易にするために、話す言葉をまとめた内容でスライドを作成する。A 4 版用紙を 1 人一枚ずつ配付し、文字や図表、イラストを用いて着色して仕上げる。実践 1 と同様にそれを書画カメラからスクリーンに投影させ、発表準備をする。

(5) プレゼンテーションの実施【意見交流学習 3】

生徒は 1 人ずつ完成した実物作品「かばん」と、プレゼンテーション用にまとめた「スライド」を用いて 1 分間プレゼンテーションを実施する。話す言葉には、衣服を持参した経緯や衣服にまつわるエピソードなど、相手に印象を与える話とともにミニ鑑賞会で得られた友だちからの言葉を用いて自らの作品の良さや改善点など、内容への工夫を企てる。そのプレゼンテーションに対して、6〜7 名(ミニ鑑賞会でのメンバーと合致しないように配慮する)で交流する。

(6) 学習の振り返り

カードから自分の作品、プレゼンテーションについて振り返る。

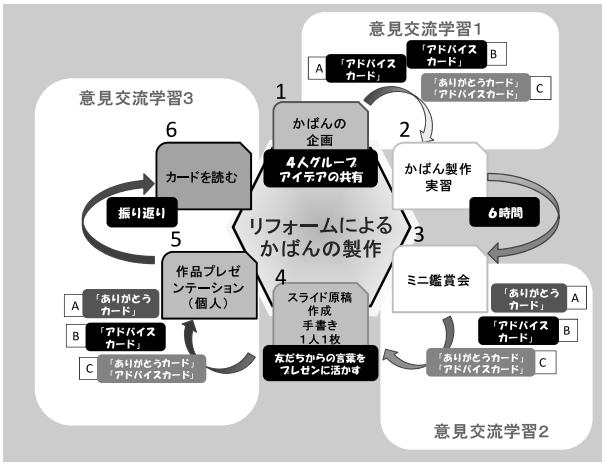


図 4　実践 2「かばん」の流れ図

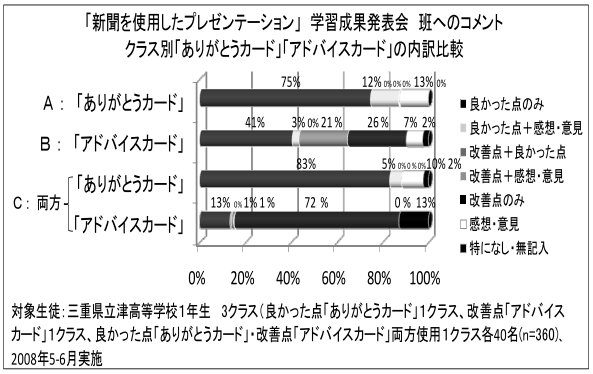


図 5　新聞プレゼン「ありがとうカード」、「アドバイスカード」の内容比較

5．授業実践の分析と効果

5. 1. 実践 1 「新聞を使用したプレゼンテーション」

授業後に実施したアンケート調査からカードについて分析した。

カード記入後、班別に回収し、その内容が指示どおりに記入しているかを確認したところ、実際にはその主旨で記入されていないものがいくつかあった。そのため主旨からどの程度外れているかを確認するためにカードの内容を筆者の判断で「良かった点のみ」、「良かった点と感想・意見」、「改善点と良かった点」、「改善点と感想・意見」、「改善点のみ」、「感想・意見」及び「特になし・無記入」の 7 つのカテゴリーに分類し、その頻度を調べることにした。

図 5 は、記入内容を A、B、C の 3 クラス別に比較・分析したものである。 A の「ありがとうカード」のみを使用した場合は、「ほめることば」の記入が多く、ほとんどの生徒が肯定的に捉えて記入できた。B の「アドバイスカード」のみを使用した場合は、「改善点」の記入を指示したにも関わらず、「良かった点」に着目した記入が約 4 割を占め、「改善点」の記入は半分以下と少なかった。しかし、両方のカードを使用した場合の「アドバイスカード」には「改善点」の割合がほとんどを占めていた。このことから生徒にとって「アドバイスカード」で改善点をいきなり指摘することは抵抗感があり、「ありがとうカード」と併用した場合、その記入により「アドバイスカード」への抵抗感が和らいだものと考える。

図 6 はクラス別にカードの肯定度を示したものである。横軸は、各項目を比較するために回答の程度も考慮した重みづけ平均値で示し、「はい」を 4 点、「ややはい」を 3 点、「ややいいえ」を 2 点、「いいえ」を 1 点としている（以下、同様とする)。グラフから「ありがとうカード」のみを使用した場合は、7 項目とも肯定度は高い結果となったことから「ありがとうカード」は他のカードより優位であるといえる。また、記入が容易であり、「達成感」、「仲間作り」に効果的であることが分かった。「アドバイスカード」のみを使用した場合は、「言葉が見つけにくいカードではあるが、次に活かす機会があれば、その言葉を活かしていきたい」ということが読み取れた。両方のカードを使用した場合は、「仲間意識」や「達成感」の項目に高い肯定度を示した。これは「ありがとう

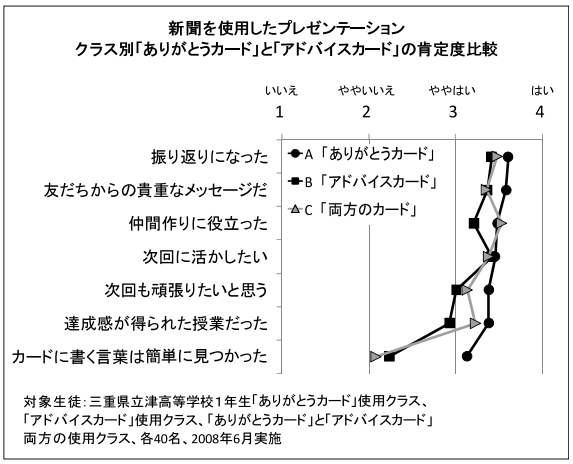


図6　新聞プレゼン　クラス別「ありがとうカード」、「アドバイスカード」の肯定度比較

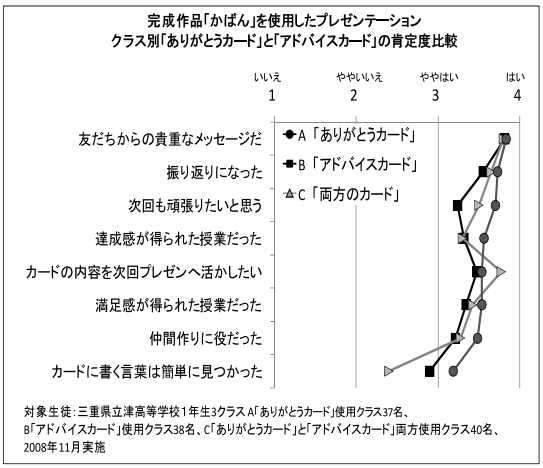


図7　かばんプレゼン　クラス別「ありがとうカード」「アドバイスカード」の肯定度比較

カード」の影響によるものと考える。また、逆に肯定度が低い結果は「言葉の見つけやすさ」であった。これは、「アドバイスカード」に記入する言葉探しの困難さと2種類のカードへの量的な記入が影響したものと思われる。

5. 2. 実践2「リフォームによるかばんの製作」

実践1と同様に、授業後に実施したアンケート調査からカードの記述内容について分析した。

①　意見交流学習1（かばん製作の企画）

企画段階における「アドバイスカード」は、「頑張れ」という励ましのコメントが頻繁に加わり、「ともに頑張ろう」という気持ちを感じとることができた。

②　意見交流学習2（完成作品のミニ鑑賞会）

「アドバイスカード」のみで交流した場合、コメントには「改善点」が5%と少なく、「良かった点」が大半を占め、「アドバイスカード」の主旨からは逸脱している状況が見受けられた。一方、両方のカードを使用した場合の「アドバイスカード」は実践1と同様に、単独で使用した場合とは異なり、「アドバイスカード」には約8割が「改善点」を記入することができた。「ありがとうカード」で良い点を記入したことで改善点を指摘する抵抗感が抑えられたものと推測する。

③　意見交流学習3（個人による作品発表会）

図7からクラスが同じ水準で最も高い肯定度を示したのは、「カードは貴重なメッセージだ」であった。このことから、生徒は友だちからの言葉に強い関心を持ち、その言葉を自分への言葉として受け入れる意識と友だちの存在を重要視していることが確認できた。最も低い肯定度は「言葉は簡単に見つかった」という項目で両方のカードを用いた場合に顕著であった。

5. 3.　カードに対する感想文からの分析

図8は、カードに対する生徒の感想の一部である。

「ありがとうカード」のみで使用した感想は、肯定的な内容が多くを占めた。具体的にはもらって嬉しい、良かったという感想がほとんどを占め、「ほめられること」に対する満足感が読み取れた。一方、「アドバイスカード」のみで使用した感想には、記述内容が比較的に少なく、内容には記入の困難さについての記述が多かった。また、「両方のカード」を使用した感想には、記入の困難さの他に肯定的な内容も多かった。記入の困難さと読む楽しみの両面での感想も目立つことから、それぞれのカードの特徴を生かしながら活用していたことがうかがえる。

6．意見交流学習の考察

6. 1.「意見交流学習」の有効性

①　図9から生徒は家庭科の授業が能動的な学習であると捉えていた。学習内容にグループ活動を設定し、プレゼンテーションを行うなどの一連の流れは受け身の学習では得られない、仲間とのつながりを実感させることができた。

②　友だちからのコメントは、自分の取り組んだことを肯定的に受けとめ、貴重なものとして受け入れようとする姿勢を持たせることができた。また自分への評価として捉えることも可能となり、教師の評価以上に達成感を高められた。

③　プレゼンテーションの前の「意見交流学習」は、プレゼンテーションで話す内容に関する負担を軽減させることができた。

6. 2. カードの有効性

①　「ありがとうカード」は、読む側にとっては喜びが得られるカードであることから、生徒相互に受け入れられやすい。初期段階では、仲間意識を育てる上で「あり

「ありがとうカード」についての感想：「ありがとうカード」のみを使用した場合
2008年12月　39名の内容から抜粋　注）括弧内の数値は同様の感想の個数を示す

【肯定的な感想】
・ほめられてやる気がでて、嬉しかった(6)
・良い点を友だちに見つけてもらうと嬉しくなった(3)
・みんなの意見・感想がきけて良かった(3)
・友だちの素直な意見を読めるのでいいと思った(2)
・他の人の作品をしっかり見ることにつながるのでよい
・いろいろな感想かきけて視野が広がったと思った
・いろんなところを見てくれていて嬉しかった
・「ありがとうカード」は、良いと思う。友だちの意見もきけるし次はどうしたらよいとか考えられるので良いなと思った
・「ありがとうカード」は、コミュニケーションをとりながらできることがよいと思った
・自分も人の作品などについて深く考えられる機会が持ててよかった。
・カードは作業に対して大きな影響になったから良かった
・だめ出しばかりだとやる気がなくなってしまうが、良かった点も書いてあるとありがた

【後退的な感想】
・時々、何を書いてよいのかわからない時があってうまくカードを使えません
・書くのはなかなか難しい

「アドバイスカード」についての感想：「アドバイスカード」のみを使用した場合
2008年12月　38名の内容から抜粋

【肯定的な感想】
・自分ではわからなかったことが、友だちに意見をもらうことで良い作品につなげられた
・いろいろな視点からの意見が聞けて参考になった
・自分では気づかないところも指摘してもらえて良かったと思う
・アドバイスをもらうと嬉しかった
・改善しなければいけないところがわかった
・改善すべき点がわかったので取り組みやすかった
・人からの意見は役に立った

【後退的な感想】
・改善すべき点についてコメントはほしいけど、自分から友だちに対して改善点というのは親しい子以外、なかなか書きにくかった
・すごく改善点が見つからなかった
・やっぱり改善点は書きづらい
・短時間で書くということが難しかった
・書くのが難しかった
・あんまり書きたいものではない
・ちゃんとしたアドバイスになっているか心配だった

「ありがとうカード」「アドバイスカード」の感想：両方のカードを使用した場合
2008年12月　39名の内容から抜粋

【肯定的な感想】
・自分の気づかないところもわかって良かった(4)
・みんなの意見がわかって良かった(3)
・自分の気づかない改善点を書いてもらえるので非常にためになる
・みんな改善点を書いてくれていたので良かった
・カードがあることで改善点などがわかり、自分の成長につながった
・改善点は参考になった。良かった点が書いてあると嬉しかった
・たくさんのカードをもらうとその分、自分の嬉しさややる気につながって良かった
・カードはやる気につながるのでいい
・次のステップにはつなげやすい
・励みになる
・すごくためになった
・カードをとおしてみんなとコミュニケーションができたから良かった
・カードを書くことによって他人の意見を深く考えることができた
・「ありがとうカード」「アドバイスカード」2枚あることがとても良かった。

【難しさと嬉しさ】
・書くのはめんどうだけど、もらうと嬉しかった
・書くのはつらかったけどもらった時のことを考えるとやっぱり良いと思う
・「アドバイスカード」を書くのが難しかった。コメントをもらうとやる気がでるし嬉しかった
・どうしても人に渡すものだから書く言葉に迷う。でももらった言葉は嬉しい

【後退的な感想】
・書く言葉を見つけるのが難しかった(2)
・改善点を書くのが難しかった
・カードを書くのはやっぱり苦手だ
・何を書けばいいのかわからなくなる
・真剣に書こうと思うと難しく感じる

図８　カードについての生徒の感想(自由記述)

がとうカード」が有効であった。

②　「アドバイスカード」の初期段階での活用は、友だちに対してコメントすることに抵抗が生じたが、学習が進むにつれて「改善点」についてのコメントを求める傾向が強くなった。一方、企画段階では、「励ましの言葉」

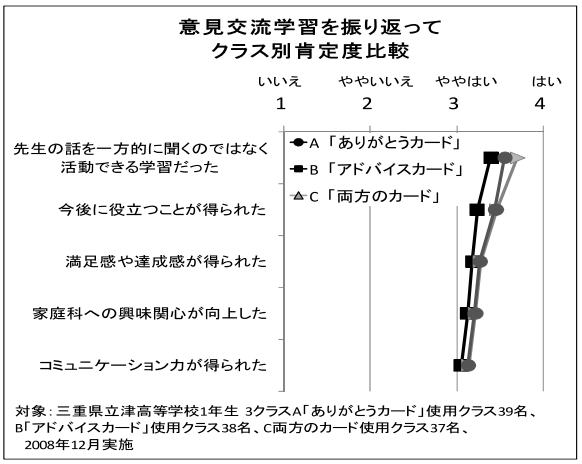


図９　意見交流学習全体を振り返ってクラス別肯定度比較

が加わり有効性が確認できた。

③　両方のカードを併用することは、記入に対する負担は大きいが、慣れるにつれ緩和される。また、「改善点」への記入の抵抗感が「ありがとうカード」で少なくなるため内容的にも受け入れられやすく、教師からの言葉と同様に有効であった。

④　カードを記名式にしたことで無責任な意見や感想の記入が回避できた。このことは読む側に不快感を与えないための配慮として有効であった。

７．言語活動の充実からみた意見交流学習の留意点

６で述べた「意見交流学習」とカード活用の有効性を踏まえて、平成 21 年 3 月に告示された新学習指導要領に挙げられた「言語活動の充実」[5] に向けて「意見交流学習」のあり方を考察した。

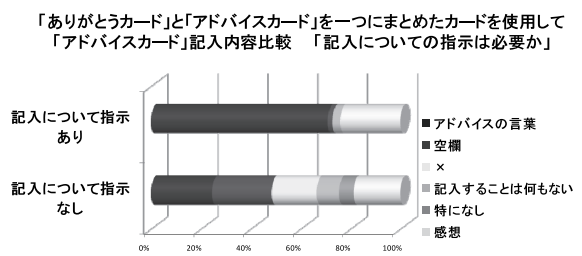
７．1. カードを用いた言語活動を円滑に進めるために

(1) カードは手書き、記名式、手渡しを基本とする

言葉の交換として、カードの直筆はその文字に書き手の暖かみが加味され、記名により内容に責任が伴われる。また、手渡しによるカード交換により言葉を相手に確実に届けることができる。カードは偏った集まりの中で交換するのではなく、全員で行ってこそ書く楽しみや、読む楽しみにつながる。その点を重視しながらカードを使用することで、クラス全体での言語活動が実現し、確実な言葉の交流が図られる。

(2) カードに記入する内容を明確に指示する

カードは具体的な記入内容を詳細に指示するか否かで記入内容に差が生じる。図 10 は、指示の有無によるカード内容の内訳を示したものである。特に「アドバイスカード」は言葉を見つけることが困難になりやすい傾向を持



対象生徒：三重県立津高等学校1年生　2クラス各40名／　記入指示あり1クラス　カード枚数158枚、
指示なし1クラス　カード枚数155枚、　実施日2009年10月、
授業内容　：　かばんを使用したプレゼンテーションに向けての「ミニ鑑賞会」

図 10　指示の有無によるカードの内容比較

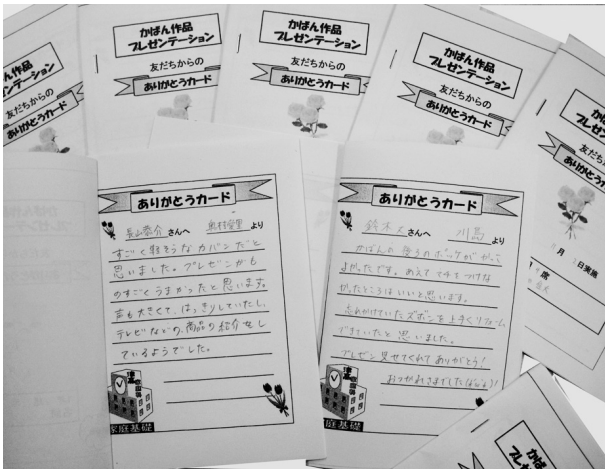


図 11　交換した「ありがとうカード」の綴り

つことから、より具体的な指示が必要となる。指示をしない場合「空欄」や「×」のままで交換することにもなりかねないため、その点を注意して指示をすることが肝要である。一方、指示をすればそのカードの意図する内容の言葉が増え、読み手も受け入れられやすくなる。

(3) コメントする力を鍛える意識を持たせる

カードにはできる限り多くの言葉でわかりやすく具体的に記入するようにする。日常的な会話として、テレビ等のコメンテーターの話す内容に注目させる。コメントは相手の話を真剣に聴くことからはじまり、自分の意見や感想をいかにわかりやすく記述するかが課題となる。コメントにつながる言葉探しや言葉のひらめきを鍛えることを意識しながら記入する。

(4) カードの言葉を次への動機づけに結びつける

「ありがとうカード」や「アドバイスカード」への言葉は友だちからの評価として受け取ることができる。その言葉を納得して受け入れられれば、次への学習内容に対する動機づけにつながる。個々に交換したカードは後に閲覧できるように綴じておくと振り返りが容易になる。カード返却時に一つに綴じるための表紙を準備するなど保管に向けた配慮により、カードが紙切れとしてではなく、友だちから集めた貴重なメッセージとして大切に思う気持ちを持たせることができる（図 11)。

(5) プレゼンテーションの準備を整える

プレゼンテーションでは「何を話すか」が課題となる。言葉の準備として友だちからの言葉をカードから引用することで言葉を準備する負担も軽減され、言葉に幅が広がる。またその内容をスライドとして図や文字で表現することで見る側もわかりやすくなり、実施する側も原稿に頼らず、前を向いて取り組むことができる。

8．まとめと今後の課題

本研究では「学習者参加型授業」に生徒同士の意見を学習に役立てる「意見交流学習」を考案し、「ありがとうカード」と「アドバイスカード」を使用した実践からカードの有効性を検証した。その結果、「ありがとうカード」は仲間意識が向上し、次への学習意欲が引き出されることから学習の初期段階において有効であった。「アドバイスカード」は単独使用の場合、記入が困難になるが、「ありがとうカード」とともに使用することで緩和できた。これらのカードは使用する場面を段階的に設定し、使用目的と方法を明確にすることで「意見交流学習」が活発になり、新学習指導要領の中で提示された「言語活動の充実」へと結びつくものであった。

今後は本研究から考察した「意見交流学習」の留意点を受けて、言語活動を重視した学習内容の検討と実践からその成果と指導のあり方を検討したい。

参考文献

1）赤塚美鈴・下村勉，「高等学校「家庭科」における学習意欲の向上を目指した学習者参加型授業の研究」，三重大学教育学部附属教育実践総合センター紀要第 27 号，pp 123-128，2007

2）赤塚美鈴，「「ありがとうカード」を用いた学習者参加型授業の実践研究」，日本家庭科教育学会第 51 回大会研究発表要旨集，pp 44-45，2008

3）赤塚美鈴・下村勉・須曽野仁志，「生徒による意見交流学習における「ありがとうカード」と「アドバイスカード」の分析と効果」，第 24 回日本教育工学会全国大会論文集，pp 297-298，2008

4）赤塚美鈴，「学習者参加型授業における意見交流学習の実践と効果」，三重大学大学院修士論文，2009

5）文部科学省，高等学校学習指導要領，pp.20-23，2009